飯山高校
桂雪会報
第1号
発行日
平成30年1月26日
発行人
長野県飯山高等学校
桂雪会長　森 司朗
編集責任者 小林幸太郎
印刷所 ㈲足立印刷所

飯山高校は、三校の歴史と伝統を継承し、未来に希望の持てる学び舎の拠点に!!

桂雪会会長　森　司朗（飯山北・27年卒）

明けましておめでとうございます。

桂雪会員の皆様には、幸多き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃は、桂雪会の活動に対し、ご支援、ご協力を賜り、役員を代表して心から御礼を申し上げます。

桂雪会設立以来の懸案でありました桂雪会報発刊について、ずっと検討を続けてきました。設立当時は、同窓会名簿が無く、早急に三校（飯山北高等学校・飯山南高等学校・飯山照丘高等学校）の同窓会名簿を捜し、作成のめどが立った際、発行することとしておりましたところ、最近の調査によりまして三校の同窓会名簿に関する資料がみつかり、平成32年度完成する予定となりました。

会報発行に際し、新校の誕生と桂雪会設立の経過について、改めて振りかえってみたいと思います。

平成17年3月29日、「長野県高等学校改革プラン検討委員会」の最終報告が発表され、同年6月24日、「高校再編整備候補案」として飯山市内の飯山照丘高等学校・飯山南高等学校・飯山北高等学校の3校を統合するという長野県教育委員会の最終統合案が示されました。

平成18年3月に発表された、「長野県高等学校改革プラン実施計画」では平成19年度には、飯山照丘高等学校と・飯山南高等学校が統合、平成26年度には、新たな高等学校「飯山照丘高等学校と飯山南高等学校が統合した新校」と飯山北高等学校が二次統合することとなり、平成19年4月から一次統合として【飯山南高等学校】と【飯山照丘高等学校】が【飯山高等学校】としてスタートしました。平成26年4月には二次統合として、【飯山高等学校】と【飯山北高等学校】が新しい飯山高等学校に生まれ変りました。

年次統合の為、（平成26年4月現在、1年生は飯山高等学校の生徒・2・3年生は飯山北高等学校の生徒）完全統合は平成28年度となりました。

飯山北高等学校桂蔭会と飯山高等学校同窓会の統合は、大事業であり、これを成し遂げるには、飯山北高等学校桂蔭会と飯山高等学校同窓会が周到な準備の下、取り組むこととしました。

初会合は、飯山地域の高校再編に伴う同窓会のあり方について、平成23年8月30日飯山高等学校同窓会関会長と飯山北高等学校桂蔭会森会長が初めて懇談会を開催し、意見交換をしました。

当日は、両校校長をはじめ関係者も同席しております。

桂蔭会から①平成28年1月を目途にした統合への協議機関として調整会議及び統合準備委員会設置の必要性を説明しました。

飯山高等学校同窓会としては、持ち帰って検討したいということとなり、検討の結果、平成23年10月25日付け文書により賛同をいただきました。

そして、第一回調整会議確認事項『平成24年3月15日』は、

①『飯山北高等学校桂蔭会と飯山高等学校同窓会統合準備委員会（以下統合準備委員会という）』を設置し、構成メンバーは、両校の同窓会長、副会長3名、両校長教頭、事務長、同窓会担当者16名としました。

②同窓会終身会費は30,000円とする方向で検討しました。

第二回調整会議確認事項『平成24年5月17日』は、

①平成26年度飯山高等学校入学生から適用する同窓会終身会費を30,000円とすることとしました。完全統合まであと4か年・いよいよ『統合準備委員会』を設置し本格的な協議を始めました。

主な統合準備委員会の審議経過を報告します。

《第一回統合準備委員会》

確認事項『平成25年9月17日』は、

①両校の統合準備委員を決定しました。

委員は、桂蔭会から森司朗、柳澤萬壽雄、宮本衡司、山田貴三、学校から二ノ宮邦彦、杉村修一、多城哲、大熊文久各氏8名。飯山高等学校から関保典、吉越英子、上松猛、太田良夫、学校から渡辺藤夫、小林正弘、藤田忠治、高橋浩一郎各氏8名。

②同窓会終身会費30,000円、入会金2,000円を再確認しました。

③会則は桂蔭会長森司朗氏がたたき台を作成し、次回に提案することとなりました。

《第二回統合準備委員会》

確認事項『平成26年1月20日』は、

①新会則について、桂蔭会長森司朗氏が提案し一部修正の上、原案の通り決定しました。

②終身会費及び入学金については、平成26年度入学予定者に文書によって連絡しました。

《第三回統合準備委員会》

確認事項『平成26年9月26日』は、

①完全統合初めての飯山高等学校の入学式は、平成28年4月6日（水）本校体育館で行われることとなりました。

②飯山高等学校完成統合式典並びに校舎竣工祝賀会式典（案）が説明されました。具体的には、実行委員会を発足して、細部について検討することとなりました。

《第五回統合準備委員会》

確認事項『平成26年6月8日』は、

①新役員は、桂蔭会から会長1名、副会長5名、飯山高等学校同窓会から副会長5名選出することとなりました。平成28年度事業計画（案）平成28年度一般会計（案）について、桂蔭会長森司朗氏が提案し一部修正の上、原案の通り決定しました。

《第六回統合準備委員会》

確認事項『平成27年8月3日』は、

①新飯山高等学校同窓会の愛称は、【桂雪会】と決定しました。

《第八回統合準備委員会》

確認事項『平成27年12月7日』は、

① 新役員は左記のとおり決定しました。

※顧問　大沼淳　池川信夫　岩崎彌　猪瀬清徳

会　長　森司朗

副会長　柳澤萬壽雄　宮本衡司　赤津安正　長坂邦彦　内山英樹

副会長　関保典　吉越英子　上松猛　太田良夫　小林厚子

監　事　佐藤清　上松敬　　各氏17名

《第九回統合準備委員会》

確認事項『平成28年1月19日』は、

① 桂雪会設立総会に提案する総会資料の最終確認と議事進行および提案者を決定し、更に、細部について意思の統一を図りました。

桂雪会設立総会は、平成28年1月30日(土)午後2時から市内で盛大に開催し、統合準備委員会提案通り、桂雪会会則、平成28年度事業計画、一般会計予算、特別会計教育基金を決定し、引き続き桂雪会の新役員を選出して幕を閉じました。

時が過ぎ、平成28年度も終わり、平成29年度もあと数か月となり、平成30年度総会に向けた準備を始めます。長かった足掛け5年間、飯山高等学校桂雪会設立のため、ご尽力いただきました役員を始め、学校関係者、会員の皆様のご指導とご鞭撻に対し、心から御礼を申し上げます。

終わりにあたり、会員の皆様方の益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げるとともに、3校の歴史と伝統を継承する新飯山高等学校が「輝かしい未来に希望の持てる学びやの拠点」となるよう、期待して私の挨拶とします。

「温故知新」と「桂雪魂」と

校長　**渡辺　藤夫**

新年を迎え、希望を胸に更なる躍進への決意を新たにされていることと存じます。桂雪会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素、本校の教育活動や教育環境の充実のために多大なるご支援を賜り、衷心より御礼申し上げます。

また、待望の同窓会報が創刊され、現在の学校や生徒の様子を会員の皆様にお伝えしたり、各支部の活動や桂雪会の活動を報告したりできますことを大変嬉しく思います。

振返りますと、平成18年3月に示された「高等学校改革プラン実施計画」に基づいて進められた飯山市3校の統合は、約10年の年月をかけ、二段階の統合を経て、平成28年4月に飯山高等学校として完成いたしました。この間に飯山北高校の校地で進められた校舎改築は、平成23年4月から始まり、平成27年12月のスポーツ科学科棟の竣工をもって完成し、城北グラウンドの野球グラウンドへの改修は平成年9月に、そして旧飯山市立第二中学校跡のグラウンド造成工事も平成29年の9月に竣工することができました。現在は、普通科・探究科（自然科学探究・人文科学探究）・スポーツ科学科、あわせて約690名の生徒が「飯山市大字飯山2610番地」の威風堂々とした校舎で、素晴らしい教育環境の中、勉学や部活動に励んでいます。

同窓会の皆様には、桂雪会設立に際して多大なお骨折りをいただき、続いて平成28年6月には「飯山高等学校統合完成・校舎竣工記念式典」を開催していただきました。平成29年の3月には、2次統合になって初めての卒業生（飯山高校としては8期生）を送り出し、桂雪会としての新会員を迎えることができました。卒業生の母校に寄せる思いは、今も昔も変わりありません。母校への「特別な想い」は年齢を重ね、人生経験を重ねるたびに強くなっていくように思います。そこには、豪雪に見舞われる厳しい自然の中で、一生懸命勉学に励み、その学びを通じて自分の人生を切り拓いていった先人の学校に対する一途な想いに通じる心情がいつの時代にも受け継がれているのだと思います。

飯山高校の校歌の作詞者は、飯山中学校の第四十一回生である歌人田井安曇氏（我妻泰氏）であり、その校歌には優しき母のような高社山・滔々と流れる悠久の千曲川・深々と降り積もる雪という飯山の風土や文化を形成してきた自然や飯山高校の歴史と未来への期待が歌われています。

田井安曇氏の歌には、ふるさと飯山をうたった次のような作品があります。

「この春に　待つものあれば　ふかぶかと
雪にうもるる　町のかなしさ」

「雪ふかき　はての信濃に　育ちしは　逃れんとして　逃れざるべし」

しかし、晩年には次のように歌います。

「信濃恋い　またしんしんと　湧き出でて
遠信濃恋い　はてしもあらず」

感じ方は様々ですが、私はこの歌の中に、厳しい自然の中でその運命を受け入れなければならない悲しさと同時に、そのような宿命に負けず人生を切いていこうとする秘めた決意の力強さを感じます。環境がどんなに厳しく恵まれない中でも、人のせいにせず、ただひたすら全力を尽くし、自ら切り開いていこうとする精神性、そしてそのような精神性を育んでくれた故郷を想う気持ちが飯山で育った人の根底にあるのだと思います。

統合を果たした本校は、未来に向かって次のステージへと進んでいかねばなりません。それは高校と地域が一体となり未来を担う有為な人材を育てることです。一度は県外へ出ることがあっても、そこで学んだ成果をこの地域に持ち帰る、あるいは他の地域や国外で仕事をしていても、この地域とつながって発展に貢献するような人材を育てていかねばなりません。未来を見つめ、グローバルな視点でこの地域の発展を考えていくことを生徒の学びに取り入れていきたいのです。

その為には、様々な分野で活躍する同窓生の協力が不可欠です。是非、母校の生徒たちにそれぞれの分野や立場で、未来を語っていただきたいと存じます。「温故知新」の言葉にあるように、これまでの歴史や文化を土台にしながら、新たな社会の創造をしていくような「熱」や「気概」を生徒たちに伝えて欲しいのです。そのことを私は「桂雪魂」とよび、飯山高校に係るすべての方々に共通するものとして大事にしていきたいと思います。

最後に、これからの飯山高校への益々のご支援をお願いするとともに桂雪会の発展を心からお祈りしてご挨拶と致します。

飯山高校 校歌碑のこと

◎米澤修一

平成29年（2017）6月24日（土）の午後、田井安曇先生作詞の飯山高校の校歌碑と先生の歌碑が完成し、その除幕式を行った。

田井安曇先生の本名は我妻泰（とおる）。「赤のれん」がご実家。昭和23年に長野県立飯山中学を卒業されている歌人で、短歌結社「綱手」の主宰者である。昭和5年（1930）に生れ、平成26年（2014）に84歳でご逝去された。歌集「経過一束」で短歌研究賞受賞、「田井安曇著作集（全6巻）」で島木赤彦賞受賞、歌集「千年紀地上」で短歌界の芥川賞と言われる「詩歌文学館賞」を受賞するなど、現代歌人たちからも尊敬を集める玄人受けする短歌界の重鎮であった。

平成18年10月に、「校名等選定委員会」で校名は「飯山」と決まった。翌平成19年秋に、統合され新しい高校が出発するにあたって新しい校歌が必要ではないか、という声が高まる中、委員会内に「校歌作成小委員会」が設けられ、作詞者・作曲者の選定が本格的に始まった。私は、当時の飯山北高校に平成18年に赴任したのだが、その前から卒業生に田井安曇という歌人がおられることを知っていた。高校教師の父がアララギで短歌をやっていたこともあり、また田井先生が朝日新聞長野版の短歌欄選者をされていることも存じ上げていたので、ここはこの方に次の百年歌い継がれる校歌を作詞していただくのが一番良いと思っていた。新しい言葉はすぐに枯渇するが、和歌の伝統を汲む言葉なら時が経てばますます味わい深くなり輝くはずと考えていた。検討の後、数多くの候補者の中から、田井安曇という飯山出身の歌人に作詞を依頼することに決定した。作曲は「大地讃頌」の佐藤眞先生に依頼することとなった。

平成19年11月終わり頃には、私から田井先生に何度かお電話でご依頼申し上げた。先生は、最初の2回はどなたか別の方に、と固辞されたが、3度目に私が斉藤茂吉や近藤芳美の名前などを出しつつ、短歌をやっていた父のことなどを話すと、急に関心をもたれ、一度学校に行きますからと言われた。あれが了承の瞬間だった。12月の初旬頃、お一人でバックパックを背負って歩いて母校に来られた。統合の経緯などをお話しした後、「百年誌」などの3校の資料を後日送ってください、と言われた。車で駅までお送りしますか、と申し上げると、いや家がそこにあるから、とこれまたお一人ですたすたと歩いて行かれた。校門を左に折れたので、今となればご実家の「赤のれん」に歩いて行かれたのだとわかるが、当時はそのことは知らなかったので、飾らない方だ、と飯山の魂や短歌が歩いているようなその朴訥とした後姿が眼に焼き付いている。

平成20年2月には東京の上野で田井安曇先生、佐藤眞先生、森司朗先生、大熊文久先生、私でお会いした。この頃にはすでに詞も完成し、曲もほぼできていた。佐藤先生は歌詞をすべて暗記して歩きながら何度も曲想を練ったという。同年6月5日、飯山高校でお二人を招いて新校歌披露が行われた。山崎浩ご夫妻の歌とピアノで、「峡（かい）の門（と）の南の方の」で始まる新校歌が飯山の地で初めて演奏された日だった。文学の香り高い歌詞と、行進曲風の若いメロディが織りなす類まれな素晴らしい校歌が誕生した。

その後私は田井先生主宰の「綱手」に半ば強制的に入会となり、先生最後の弟子として稽古をつけていただいた。平成26年11月に難病のため先生がこの世を去って一年ほど経った頃から、故郷の飯山に歌碑を作りたいという会員の声が高まり、「綱手」役員は渡辺藤夫校長や森司朗同窓会長と何度か話し合いをもち、校歌碑と歌碑の両方を作れないものかと検討を重ねた。私は三者をつなぐ役目と自認して働かせていただいた。「綱手」が募金を開始するので桂雪会と学校にもご協力いただきたいという形で、最終的には同窓会にも多額のご協力をいただき銅板レリーフ型の校歌碑と歌碑の二つが揃うことになった。設置場所は、渡辺校長から提案していただいたアリーナ南側の擁壁面となった。旧飯山北高校の校門あたりで視野が開けている場所で、道路からもよく見える位置。飯山市の大切な文化財として、愛好家だけでなく多くの観光客にも見ていただきたい。高校内に歌碑を設置しているところは全国でも珍しいのである。平成29年5月20日の桂雪会総会では、「綱手」の柳川創造代表編集人による「田井安曇は飯山をどう歌ったか」の講演を企画していただいた（講演録は結社誌「綱手」に掲載されている）。

そして6月24日の除幕式を迎える。式には「綱手」の井上美地主宰・柳川創造代表編集人他会員、「赤のれん」の現当主である田井先生の実弟我妻英雄様、宮本衡司県議（代理）、森司朗同窓会長他役員・同窓会員、常田新司PTA会長他役員、長瀬哲飯山市教育長、渡辺藤夫校長先生・清水久樹教頭先生他学校職員の皆様等、多くの方に参列をいただいた。製作・設置は一粒工芸社（川口市）、パンフレット作製は中央堂印刷様にお願いした。心配された雨はなく、晴天の中、二年近く準備を重ねてきた校歌碑と歌碑が除幕された。感無量であった。中曽根先生指導の合唱班の生徒たちが銘板の前で校歌を歌ってくれた。記念写真にはその生徒たちも写っている。落ち着いた色の銅板が田井先生らしい。ここで母校の後輩たちをこれからもずっと励まし見守ってくれるはずである。

校歌にある、「走りでのよろしき山」は柿本人麻呂から、「信濃子」は島木赤彦に由来することを田井先生は自注で残されている。三校の歴史や校歌を大切にしながら、万葉から近代に至る短歌の伝統も盛り込んだ、文学の香りが馥郁とする格調高い歌詞で、生徒たちは卒業してからもその豊かで深い味わいを誇りと思うことであろう。反骨の歌人、田井安曇は飯山で生まれ学んだことを、生涯胸に深く刻んで感謝していた。

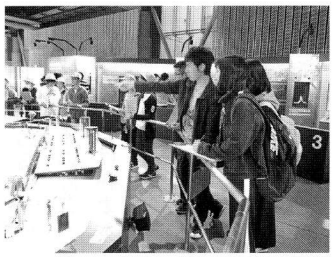
最後に、田井安曇先生の歌碑には次の歌が刻まれている。先生がお元気だったころの直筆が偶然色紙に残っていたのを発見し、それを銘板にしている。強い望郷の思いが詠われている。

信濃恋いまたしんしんと湧き出でて遠信濃恋いはてしもあらず

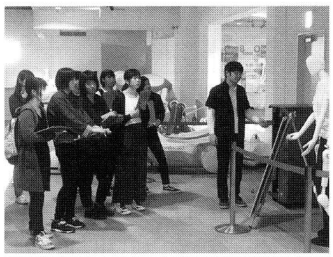
校歌碑・歌碑を是非ご覧いただき、飯山高校の魂と伝統を心に刻み、未来に向かってともに磨かれんことを切望するものである。

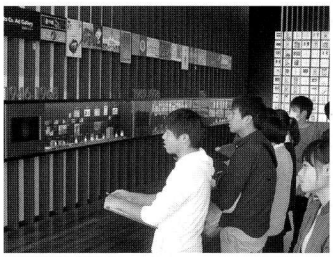
学校の様子

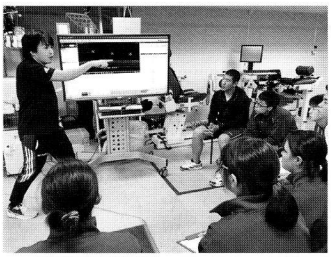
◎1学年各科でサイエンスツアー実施


日本科学未来館（学年共通）

10月、1学年でサイエンスツアーが実施されました。各科で首都圏に出かけそれぞれの場所を訪問しました。●探究科…JAXA(宇宙航空開発機構)・筑波実験植物園・サイバーダインスタジオ（最先端ロボット技術の展示、体験)・東大キャンパス・日本科学未来館。●普通科…日本科学未来館・味の素・君津製作所・花王・東大キャンパス。●スポーツ科学科…日本科学未来館・日本体育大学。最先端の科学技術について、実際に見て、触れて、体験を行って、様々な刺激を受けてきました。学校に戻ってからは、グループ毎にまとめとプレゼンテーション活動に取り組んでいます。


サイバーダインスタジオ（探究科）


味の素（普通科）

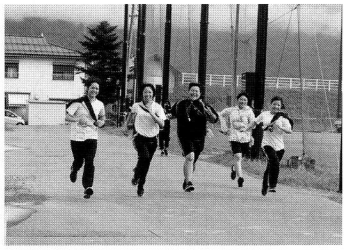

日体大（スポ科）

◎【みやぎ総文2017（全国高等学校総合文化祭）】自然科学部門で奨励賞（全国4位）受賞

○自然科学部門（石巻市）…物理・化学・地学・生物・パネル発表の5部門に各都道府県から選ばれた代表が参加し、研究発表を行いました。本校自然科学部は地学部門で、「ターコイズフリンジをISSでとらえる」を発表、全国4位にあたる奨励賞を受賞しました。

◎第34回強歩大会

10月13日（金)、全校生徒参加の強歩大会が開かれました。朝からの大雨で2時間近く開始を遅らせました。少雨の中のスタートとなりましたが、暫くして天候も回復し、秋晴れの中のレースとなりました。第2グランド堤防から千曲川左岸を走り、柏尾橋を渡り、瑞穂地区を抜け、中央橋を渡り、城北グランドにゴールする18kmのコースでした。参加者全員が完走・完歩しました。ゴール後には、PTA有志の方々（約50名）による特製豚汁が振る舞われました。

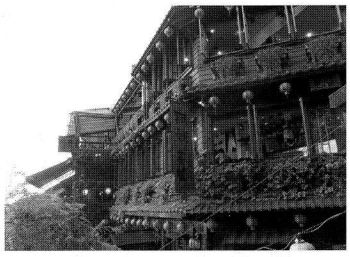


◎スキー部の活躍に対し「飯山市表彰」

平成29年8月1日、市政の進展に貢献したことで、「飯山高等学校」（スキー部のインターハイ男子総合優勝)、「スキー部クロス女子リレーチーム」（全日本選手権3×5kmでの優勝）に対して「栄誉賞」が贈られました。

◎2年生台湾研修旅行

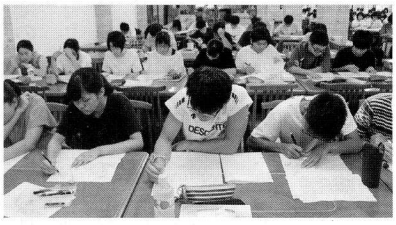
各科ごとに台北市内の高級中学校を訪問し、発表やフリートークで交流をしました。現地大学生のガイドによる班別行動や士林夜市、故宮博物館見学や九份観光、足つぼ体験など、異国の風情を満喫しました。



◎オーストラリア・バサースト校から高校生来校

オーストラリアから生徒8名が来校し、1年生の授業に参加し、生徒たちと交流しました。書道で漢字に挑戦したり、剣道部の活動を見学するなど、日本文化にもたくさん触れました。

3年学習合宿



夏、志賀高原で学習合宿が行われ、107名の生徒が参加しました。早朝から23時過ぎまで、進路実演に向けて必死に取り組みました。

「桂雪アカデミー公営塾」開設

畑田　典男

桂雪アカデミーとは、桂雪会及びＰＴＡが中心となって運営している組織です。桂雪アカデミーの目的の一つである「週休日及び休日を本校生徒の学びの場として活用し、学力向上のための補習講座や模擬試験・資格試験等を実施する。」という項目を補完する事業として、平日の居残り学習（二十時三十分まで）や日曜日及び休日の学習室設置を行うことで、生徒の学習環境を充実させることを目的に「公営塾」を開設しました。一年生十三名、二年生四十一名、三年生八十三名、計百三十七名が登録しています。利用者数は、休日・平日共に三年生を中心に二十名から三十名程ですが、毎日真剣に学習する姿が見られます。センター試験まで残り三十日程となった今、緊迫感が漂う学習室の中で、三年生の姿に触発されながら学習に取り組んでいる二年生も居ります。このような状況が良い連鎖をつくりだしてくれると思います。

3年生　髙橋　聡

私が蛍雪アカデミーに参加して良かったと思ったことは、環境の良さです。冷暖房設備が充実しているのはもちろん、周りに自分以外に勉強している人がいる環境で勉強することで家よりも格段に勉強に集中できるだけでなく、周りに勉強している人がいることで「自分もやらなきゃ。」という気持ちになります。また、家では休憩を頻繁にとってしまいがちですが、周りの目があるところで勉強することで休憩をとる回数が減り勉強がとてもはかどりました。

蛍雪アカデミーは、非常に良い勉強の環境だなと感じました。

豚汁の差し入れもありたいへんおいしくいただきました。ありがとうございました。

グラウンド完成

小林　至（陸上競技部顧問）

２次統合の最終工事、旧飯山第二中学校校舎跡地にグラウンドがこの９月に完成しました。人口減少に伴い小学校や中学校そして高等学校の統合とさみしいわけですが、このような立派なグラウンドを整備していただき本当にうれしい限りです。現在は、体育の授業で、放課後は陸上競技部で使用しています。変則的な形ですが１周３００ｍのトラック、砂場、投擲練習のピット（コンクリート）があり、暗渠排水設備で水はけが非常によいグラウンドになっています。陸上専攻・陸上競技部の顧問としては、立派な施設に甘えず工夫や努力をして、生徒の学習成果と競技力をあげていきたいと考えています。地域の方々から期待されるよう頑張っていきたいと思います。小林の独り言ですが、飯山城址などと合わせて飯山のスポーツ・健康づくりの拠点になったらなあとも思っています。

完成したグラウンドや校舎で学ぶ生徒が、この地域を誇りに思いながら、この地域で学び、そして、社会人となってこの地域で活躍し、地域を盛り上げてくれるものと信じています。

山嵜　真和（陸上競技部部長）

今年の夏に完成した飯山高校の新しいグラウンドは、今ではなくてはならないものとなっています。新グラウンドは、飯山高校スポーツ科学科陸上競技専攻の授業のために整備されました。陸上専攻は、平成26年に新たに設けられました。統合にあたり練習場所が限られ、練習のために長峰のグラウンドなどを利用し活動をしていました。新グラウンドが完成したことで校舎から直近で活動ができるというメリットがあります。１周３００ｍのトラック、跳躍ピット、投擲ピットがそろい幅広い活動を行うことが出来るようになりました。専門的にスポーツを追求するスポーツ科学科には、このような練習場が必要です。現在、陸上競技部もこのグラウンドを使用しており、陸上競技専攻の技術や活動が、部活動でも広く活かされています。

支部活動リポート　東京・関東支部だより

平成二十八年度 桂蔭会東京・関東支部総会報告

髙橋　彰（高24卒）

秋の日差しが心地よい十一月十二日（土）、平成二十八年度桂蔭会東京・関東支部総会を、東京桜田門の「法曹会館」で開催した。一年おきに開催する総会であり、早くから待ちかねたように懐かしい顔ぶれが集まった。通例の会場である「アルカディア市ヶ谷」の改装に伴い、多少手狭な会場ではあったが、総会に続いての懇親会は和気あいあいの熱気あふれる集いとなった。

副支部長の髙橋（高24）の進行のもと、青井（旧姓岡村）富雄支部長（高19）の開会挨拶で始まり、来賓としてお出で頂いた桂雪会本部の森司朗会長（高４）から、高校再編成で飯山高校に統合したことにより、同窓会も北高の象徴「桂」と南高・照丘高の象徴「雪」を合わせて「桂雪会」とし会長を仰せつかったこと、城北グラウンド整備に県の補助と連動して整備経費を支援したこと等のご挨拶を頂き、飯山高校の大熊文久先生（高26）からは野球部が県大会・北信越大会で活躍したこと等をご紹介頂いた。

続いて総会議題である活動報告を桂蔭会本部副会長・代議員の長坂邦彦氏（高６）が、桂蔭会完会式、桂雪会総会および桂雪会の新しい本部規約について報告した。さらに、副支部長の阿部靖典氏（高31）から会計報告、幹事の岡田庸利氏（高８）から

会計監査報告があり、活動報告、会計報告ともに拍手で承認された。

また、これまでの桂蔭会東京・関東支部を桂雪会東京・関東支部に移行する旨が提案され、拍手で承認された。なお、旧飯山南高および現飯山高校の同窓会は東京・関東地区に支部が無いことから、今後は本部から旧南高の在京世話人が推薦されるのを待って準備委員会を設置するなど、体制整備を始めることも了承された。

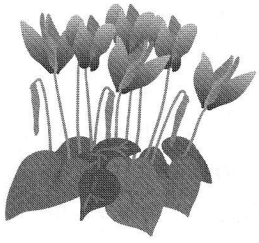
講演会は、国画会彫刻部会員で彫刻家の猪瀬清四朗氏（高8）から、「ふる里が育むかたち」と題して、唱歌「ふるさと」にも歌われている原風景への思いを、数多くの彫刻作品で表現しているとの感銘深い説明があり、多くの作品をご紹介頂いた。なお、猪瀬氏の作品は、飯山高校や飯山市文化交流館「なちゅら」に展示されている。

会場を移して開かれた懇親会は、岡田庸利氏（高8）の軽妙な司会のもと、足立信一氏（高3）の乾杯で始まり、和やかな懇親の集いとなった。また、ご多忙中を割いてご出席頂いた飯山高校の渡辺藤夫校長先生（高28）からご挨拶を頂き、さらに飯山高校で行われている唱歌「ふるさと」4番歌詞作成プロジェクトの中村百花さん、祢津里紗子さん、引率の藤沢先生から活動の紹介があった。なお上京された三人の様子は、講演会の聴講と合わせて、NHK長野局の取材を受けた。飯山市議会議員の江澤岸生氏（高24）からは、飯山の現況が報告された。

引き続き、二期会ソプラノ歌手である藤好しのぶ氏（高44）の「ふるさと」を含め3曲の独唱が会場に響き渡った後、今回初参加の高28、34、36卒若手の自己紹介に続いて、恒例の北高応援歌、飯高別れの鐘、飯山北高校歌「甲斐の高峰に～」が会場一杯、高らかに歌い上げられた。

最後に渡辺忠嗣氏（高7）のせり上がる万歳三唱と池川哲郎氏（高2）の挨拶で閉会し、互いに再会を誓って散会した。

桂蔭会東京・関東支部は今総会をもって桂雪会東京・関東支部に組織的に移行し、新たなスタートを切った。今後はこれまでの伝統を継承しつつ、旧南高および現飯山高校の同窓生を含む新たな組織を目指すことが求められている。



平成28年度支部役員

支部長　青井　富雄（高19）（旧姓岡村）

副支部長　髙橋　彰（高24）

副支部長会計　阿部　靖典（高31）

会計幹事　岡田　庸利（高8）

世話人　山城　弘枝（高34）
六川　裕幸（高34）
藤好しのぶ（高44）

本部副会長・代議員　長坂　邦彦（高6）

飯山高等学校桂雪会支部役員名簿　（平成29年5月）

【県内（21）】

支部名	支部長	副支部長	会計
飯山支部	上松　永林	横川　荘一 村石桂太郎 島田　和彦	岡田　敬幸
秋津支部	森山　善司	丸山　朗	
木島支部	関　藤夫	澤木　伸一	
瑞穂支部	増山　保範	岩松　義雄	
柳原支部	佐藤　正夫	木幡喜美子	
外様支部	春日　早夫	春日　隆	
常盤支部	平野　正幸	鈴木　厚子	
太田支部	青木　彰	庚　繁樹	
岡山支部	井沢　清一	田中　康一	
木島平支部	瀧澤　俊實	池田　充栄	
野沢温泉支部			
栄支部	森川　博		
長野支部	武田　芳彦	瀧澤　国夫	（会　計）
上小支部			
須高支部	小林　守夫	大熊　文久	
豊野支部	米木　善登	原田　茂	
中野支部	大森　真一		
豊田支部	吉岡　典高	小橋　浩樹	
山ノ内支部			
真田支部			
津南支部	島田　哲宏		

【県外（5）】

支部名	支部長	副支部長	会計
北海道支部			（会　計）
東京関東支部			（会　計）
静岡支部			
関西支部			
東海支部			

【職域（1）】

支部名	支部長	副支部長	会計
県庁支部			

※空欄は検討中

［凡例］
※桂雪会会則第11条の支部⇒県内支部21・県外支部5・職域支部1
※桂雪会会則第9条の4⇒代議員は、別定める方法により選出する。
※代議員選出規程により選出する。第2条代議員の選出方法は次のとおりとする。⇒1各支部は2名とし、支部長1名と支部役員から1名選出する。なお、役員会の承認を得て必要に応じ増員することができる。
※新役員には、新支部名簿及び平成28年度・桂雪会総会資料を送付する。